

さんま通信



厚生中央病院だより 第40号 2015年

冬



平成27年 新年のご挨拶

病院長 櫻井 道雄

新年あけましておめでとうございます。

全人口に対する65歳以上の高齢者の割合を高齢化率と言います。この高齢化率が21%を超えると超高齢社会と言います。日本はすでに2005年に超高齢社会を迎えています。現在の高齢化率は約25%で四人に1人が65歳以上です。団塊の世代（昭和22～24年誕生世代）がすべて後期高齢者となる2025年には、65歳以上の高齢者が三人に1人、75歳以上の高齢者が五人に1人に増え、単身者と夫婦のみの高齢者世帯が現在の約55%から約70%にまで増えると予想されています。また、これから二人に1人が癌に罹患し、三人に1人が癌で亡くなる時代になります。

このような中、高齢者は多くの病気を抱えながら住み慣れた地域で暮らすことを希望しています。高齢化社会で地域の人々が安心して暮らせるためには医療と介護の連携が必要です。地域の病院を中心として診療所、在宅、高齢者施設等との連携強化を進めなければなりません。

我々の病院は8年前から高齢化社会に適応した地域中核急性期病院を目指してきました。昨年は、入院治療が終了し地域に戻るための準備病棟として「地域包括ケア病棟」を開設し、また目黒区の在宅療養支援病床確保事業にも参加し、在宅療養を受けている患者さんが急変したときに主治医からの入院依頼に対して24時間体制でこれを受け入れる「在宅療養救急ホットライン」を救急室に設置し、在宅医療を支えています。

また、厚生中央病院は、がん専門病院、大学病院などと連携を強化し、地域との橋渡しができる病院でなくてはならないと思っています。

我々の病院は地域を支える病院です。地域の人々が安心して医療が受けられるためには、皆様方から貴重なご意見を聞かせて頂けることが何よりも重要だと思われまので宜しくお願い申し上げます。

最後に、皆様方におかれましては心豊かで平穏な一年でありますことを心からお祈りし、これを新年のご挨拶に代えさせていただきます。



目次 contents

平成27年 新年のご挨拶 1

魚の骨がのどにささったら、
ご飯を丸飲みしますか？ 2～3

地域健康フェスティバル2015を開催します！
医療連携懇談会を開催しました 4

どうして？
さんま通信の

目黒で野駈けをしていた殿様が、初めて召しあがる“さんま”にいたく感激。お城で再び食べてみたが、美味しくない。即座に『さんまは目黒に限る！』
当院も“目黒のさんま”でありたいとの願いを込めて。

魚の骨がのどにささったら、ご飯を丸飲みしますか？

～耳鼻咽喉科が扱う救急疾患～

耳鼻咽喉科 医長

河 口 幸 江

「ご飯の丸飲み」はみなさんご存じでしょうが、果たして正しいのでしょうか。急なトラブルの時にはどうしてもあわててしまいます。魚の骨がのどに刺さった場合も含めて、耳鼻咽喉科に救急で受診する病気についての対処法と病院に受診した方がよい場合についてお話していきます。

Case 1 子どもが夕方から急に耳を痛がりだしました。

A 自宅で対処可能ですので、あわてて救急外来を受診する必要はありません。

10歳未満のお子さんが耳を痛がる場合の多くは急性中耳炎であることが非常に多いです。痛がる耳をビニール袋にいれた氷水や保冷剤などでよく冷やしてください。冷やすだけで痛みが治まることも多いですが、痛みが続く場合には小児用解熱剤を使いましょう。解熱剤には鎮痛効果もありますので、発熱していなくても服用して問題ありません。坐薬の場合30分ほど、内服薬では1時間くらいで効果が出てきます。自宅に常備薬としてない場合、小児用バファリンなど市販薬を買って飲ませるのでもよいです（大人用のバファリンとは成分が少し違うので注意してください）。痛みがとれて眠れたらその日は自宅で寝かせてあげましょう。入浴すると痛みが悪化するので控えます。

急性中耳炎は一晩で重篤な病状になることはまれですので、夜間は痛みを取ってあげ安静にしましょう。翌朝痛みがなくても、翌日の午前中には耳鼻咽喉科に連れていってください。

Case 2 鼻血が止まりません。

A 下記の対処法を行っても20～30分止まらない場合は救急で受診しましょう

鼻出血の大半が鼻の入り口近くにあるところからの出血です。大げげでない限り脳から出血しているということはありません。椅子に座り、下を向いて、ティッシュで小鼻を両側から強く指でつまみます。鼻の中にはティッシュを詰めずにつまみます。上を向くのも首のうしろをたたくのも間違いです。鼻の骨がある固いところをつまむのも効果はありません。10～20分は離さずに強くつまんだままにします。途中のどにまわった血は飲まずに口から吐き出してください。20分してもまったく止まらない場合には鼻の奥から出血している可能性がありますので、救急で耳鼻咽喉科を受診しましょう。貧血症状などがある場合には救急車を要請した方がよいです。

Case 3 めまいがひどいのです。

A 歩けないほど強いめまいの場合に救急で受診しましょう

めまいというと、何か脳の悪い病気ではないかと想像しがちですね。なぜ耳鼻科を受診するのか？と疑問を抱かれる方もいらっしゃるでしょう。日中にめまいで病院をかける方の多くは耳鼻咽喉科で検査・診断を行います。さまざまな原因がありますが、脳卒中などの脳の病気はめまいで受診される方の約1割程度と少ないので、あわてて救急を受診する必要がない方が多いです。しばらく安静にしても歩けないほどの強いめまいの場合、めまい以外に、ろれつが回らない、顔や手足がうまく動かないなどの他の症状もあるときには救急で受診する必要があります。救急車を要請しましょう。

Case 4 魚の骨がのどに刺さりました。

A 刺さったあとは食事をやめ、痛みが変わらない場合には受診しましょう

昔から「ご飯を丸飲みしなさい」とよく言われていますが、これは間違いです。大きく太い骨が食道の入り口付近に刺さった場合、食道に穴があいて重篤な状態になりかねなく危険です。食事を食べるのをやめて受診しましょう。夕食を食べている間に刺さって、すぐに病院にかかることが困難な場合には翌朝まで食事せず、耳鼻咽喉科へ行きましょう。

Case 5 のどが痛いと思っていたら、だんだん息苦しくなってきました

A 直ちに受診が必要です

のどの痛みと呼吸苦で命を落としかねない「急性喉頭蓋炎」という病気があります。のどの痛みが強い場合には数時間で呼吸困難になり、急激に悪化して緊急入院や緊急手術が必要なこともありますので、「のどの痛み」は風邪や扁桃腺（口蓋扁桃）の腫れだろうと軽く考えず受診してください。息苦しさも感じるようになった場合には救急車を要請した方がよいでしょう。

最後に

俗に言われているものと正しい対処法が異なることもあります。耳鼻咽喉科の診療で多く扱う救急疾患を中心にお話しました。救急で治療を受けた方も精密検査が必要です。夜間・休日の受診のみでなく平日の一般外来も受診してください。



地域健康フェスティバル2015を開催します!

☆開催日時

平成27年2月22日 日曜日
午前11時から午後3時

☆開催場所

厚生中央病院内

☆予定している実施内容

- ・計測ツアー(血圧・骨密度などの測定、医師による健康相談)
- ・なりきりキッズ写真館(ナースやドクターに変身)
- ・病院見学(手術室等)、AED操作講習
- ・目黒区健康推進課の協力による受動喫煙についての展示
- ・転倒予防体操等



(目黒区医師会共催)
(目黒区後援)

ご家族そろって
お越しください。



医療連携懇談会を開催しました

平成26年11月7日に近隣地域の医療機関の皆様方を、平成26年11月28日には近隣の訪問看護ステーション、居宅介護事業所、高齢者施設及び地域包括支援センターの皆様方をお招きして、

地域の医療及び介護の連携強化のため、意見交換をさせていただきました。

これからも皆様方と地域を支える病院を目指していきます。



病院の理念

- ・私たちは、心の通った温もりを感じる医療を目指します。
- ・私たちは、組合被保険者ならびに地域の人々の健康と福祉に貢献します。
- ・私たちは、病院機能の充実を図り、サービス向上のため日々研鑽します。

基本方針

「健全な経営と安全で質の高い地域中核病院を創造する」

行動目標

- ・私たちは、患者さんから選ばれる病院を創り上げる。
- ・私たちは、効率的で質の高い安全な医療を構築する。
- ・私たちは、安心と誇りを持って働き、一番大切な人を受診させたい病院にする。

患者さんの権利

- ・最良の医療を受ける権利
- ・病気について、理解可能な言葉で説明を受ける権利とその説明に対して意見を述べる権利
- ・プライバシーが守られる権利
- ・転院の権利
- ・診療情報の開示を求める権利

患者さんの義務

- ・自己の療養に関して病院職員に協力する義務

